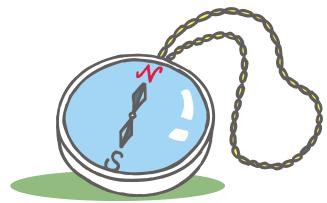


羅針盤



第 17 号 令和3年(2021年)9月27日(月)

◆ 知は力なり

この2学期には、3年生の修学旅行や文化祭、そして、体育大会など、一年間の学校生活を見通した中でも主たる学校行事が行われることとなっています。生徒の皆さんのがんばりの持てる力を十分に發揮して、協力し、それぞれ一人ひとりが持ち合わせているパワーを表現する力を精一杯に出しきってもらいたいと思います。9月の下旬となり日差しも和らぎ始めており、夏から秋へと季節が移り変わっていく中で、学習面においても、更に深い学びを追い求めながら、探求心を培ってもらいたいものです。イギリスの著名な哲学者であるフランシス・ベーコンという人は「知は力なり」という言葉を残されています。日々の積み重ねによる勉強によって得た知識はいつか必ず自分の力となる。そして、この力がたくさんあればあるほど、自分自身の人生の選択肢が増えて、大人になったときに大きな力となって役立つ日がやってくると教えておられます。君たちの中にはゲームにはまってしまい多くの時間を割いている人がいるかと思いますが、そのゲームも手持ちの攻撃する手段やあるいは防御できるアイテムが多ければ多い程、次のステージへと進むことができることになっているはずです。知識も同じで、蓄えれば蓄えるほど、知識量が増え、そして、人生の選択肢も増えていくものです。自分の生きていく道を選ぶためにも、選択肢が多いことに越したことはありません。そして、またベーコンは、知識については「正しい知識」を身につけることが何よりも大事なことであり、そのためには、たくさんの経験をすることが重要であると考えていました。つまり、勉強は机の上だけでするものではなく、その知識を活かして、外の社会に出たときにしっかりと使えるようにいろいろなものを見たり聞いたりすることが併せて必要なことだと考えたのです。様々な経験を通じて、自分の知識が本当に正しいものであるのかどうなのかを検証することができてこそ豊富な知識を蓄えることができると言えています。学習を通じて得た知識が自分の持つ力となるためには、彼が言う「経験」も必要なことではないでしょうか。



◆ 運命と戦って勝ちたい

ベートーベンが作曲専業の道を選んだのは、聴覚を失ってからだそうです。伝記『ベートーヴェンの生涯』では、苦難の音楽家であった彼の内面がつづられており、「私は運命と戦って勝ちたい、だがこの世の中で自分が最もみじめな存在ではないかと感じてしまう。」と、しかしながら、彼は運命と戦い、かつ、諦めずに困難に打ち勝ちました。9月5日に、障がい者スポーツの祭典である、東京パラリンピックが閉幕しました。感染症の拡大に脅かされながらも、参加にこぎつけた選手たちの中には、呼吸器系の疾患をもった人たちも少なくなかったと聞きます。それでも、東京に集まり、競技に参加した選手たちは、ベートーベンと同じく、運命と戦い、そして、その困難を乗り越えてきた人たちの姿ではないでしょうか。人間の内側に秘められた凄さを感じとれる大会だったと言えるのではないかと思います。

